社說

造船及び造兵

海軍の擴張に伴ひ造船所及び兵器製造所を增設して內國に於て艦体、機關、兵器を製造するの計畫ある可きは勿論のみとながら軍艦の製造に就ては小形の軍艦及び水雷艇の如き差當り民間私立の造船所に依托するの方針を取るみと得策なる可し目下我海軍の造船業は歐米の先進國に比すれば甚だ幼稚にして彼の榊立、秋津洲を始め須磨、明石の如きは橫須賀造船所にて造りしも重もなる材料は皆外國に仰ぎたるものにして新造の艦船は皆分の處、先以て外國に注文するの外なけれども國家永遠の計を考ふれば充分なる保護を與て私立の會社に軍艦を製造せしむるの必要を認めざるを得ず政府にては內國の造船業を保護するの目的を以て造船奬勵法を發布したり施行の日尙は淺くして其結果は未だ知るを得ずと雖も佛國の如きは夙に海運奬勵法を實施して內國製の船舶には外國製のものに比して二倍の奬勵金を與ふるの規定なりしも國內の船主等は斯る保護の法あるにも拘はらず却て英國に注文するもの多かりしより近年更らに其法を改正して一方には內國製の奬勵金を增したる其一方に外國製には全く金を與へざるみとにしたりと云ふ以て造船業奬勵の容易ならざるを見る可し我國今日の實際に於て外國製を排除するが如きは素りよ望む可らざる處にして眞實奬勵の目的を達する爲めには或は更らに奬勵金の割合を增し若しくは造船用の材料、艤內裝具品の如きは輸入稅を免除する等の必要もあるみとならんなれども其事は姑く擱き目下海軍擴張の時機に際して軍艦の製造を私立造船所に依托するの方針を定め其保護法として例へば其製造を請負ふたる者に對して製造費の內を前渡して年賦返濟の法を立つるなり又は艦首骨、艦尾骨、龍骨等の大鐵材、機械その他內國にて製出するみと能はざる諸機械を買入るゝ爲めに其代價の幾分を前金にて附與するなり適宜の保護を爲さんには國內の造船家は喜んで之を引受くるみとならん現に長崎造船所にては海軍省の注文に應じて六千噸の商船製造に着手したる程にして軍艦の如きも美事に成功す可き覺悟なりと云ふ政府に於て前の如き保護法を定めたらんには其他の造船所に於ても同樣の次第にして之が爲めに事業の發達を致す可きは我輩の疑はざる所なり但し內國にて製造するときは外國注文に比較して幾分か高價の製造費を要し(佛國に注文したる鳥鵬、松鶴の製造費は平均二百二十餘萬圓、橫須賀にて製造したる同姉妹艦橋立は二百四十餘萬圓にして殆んど二十萬圓の差なれども外國に注文するときは運搬費その他の費用を要するにより實際相別の相違なかる可し)又建成期限を延長するは實際に免かる可らずと雖も第一に日本の職工に熟練を得せしめ其費用の如きも自から國內に散布するは勿論材料も成る可く內國の物を用ひ隨て製錢その他の工業の發達を促して造船業の進歩を助くる其利益は國家經濟の上に[illegible]のものなる可し外國の例に徵するに米國の如き[illegible]の勢[illegible]は僅に數年來のみとにして即ち彼の新海軍擴張の計畫に際し廣く國內の造船會社に製艦の入札を勸奬して其落札者に注文したる以來造船社會の形勢一變、長足の進歩を致して今や私立の造船所に於て一等主戰艦幷に有力快速の巡洋艦を製出するに至れり其他の諸國に於ても艦船の新造とあれば多くは私立會社に注文する常にして殊に佛國には海軍造船所五個所あれども孰れも軍艦の艤裝、修理に忙はしくして他の機器の製造に及ぶの餘力なきが故に造船用の諸材料及び汽機、螺旋等は悉く他に仰ぎ水雷艇の如きは全く私立會社の手に成ると云ふ英國海軍の經驗に據れば主戰艦の如きは政府自から造るに利あれども巡洋艦以下は私立會社に托するみと得策なりとて昨年の夏同國海軍造船會議に於て當局者の公にしたる官私立造船所の製造費比較表を見るに双方の差額を左の如く算したり

英國官私立造船所製艦費比較

一等主戰艦(一四、一五〇噸)	官	八四三、五九〇	鎊 三九、二〇二
	私	八八二、七九二	
一等巡洋艦(七、七〇〇)	官	三九七、〇二六	鎊 二二、八四五
	私	三七四、一八一	
二等巡洋艦(三、六〇〇)	官	二四四、〇〇〇	鎊 二七、八三〇
	私	二一六、一七〇	
三等巡洋艦(二、五七五)	官	一五七、〇〇〇	鎊 三三、〇〇〇
	私	一二四、〇〇〇	
水雷艇(八一〇)	官	六三、八〇〇	鎊 一三、九〇〇
	私	四九、九〇〇	

(英國にても水雷艇は悉皆私立會社に注文す)

右は英一國の例にして各國皆然るや否やは知る可らずと雖も要するに巡洋艦以下の小艦は私立造船所に製造せしむるを得策とするの事實として認むるを得べきものなり

(此稿未完)

○墨國特報

十月十九日　在墨國　孤劍生

汽車ホアレス市に停まるみと一時間夕陽西に春く頃ろ汽笛一聲墨國の高原地即ちテーブルラントに入る新に身邊に落ち來る墨國の山容水色は眼界愈々新なりと雖も暮色蒼然遠きより來りて唯だ一片の半月斷雲の間より漏れ夜陰凄寒軍窓の夢魂獨り寂たり而して此の夢中に汽車は熱帶線を破つて南進す凡べて墨國の地勢は太平洋及び墨西哥灣の沿岸地を除いては一般に鑒起す而して中央鐵道は實に此の高原地の脊髓上を走つて行く先づ鐵道の起點ども謂ふべきホアレス市にして既に水平線上三千八百尺の高きに在り更に進んでサカテカス市に到れば八千五百尺に隆起す故に汽車然帶線內に入るも亦實に七千五百尺に隆起す故に汽車然帶線內に入るも氣候の苦熱を感ずるなく洋々春の如く夜間稍々寒冷を感ずるに至る此の高原地は渺々蜿々南北千餘哩の遠きに亘り其幅員より言へば墨國全面積の三分の二以上に達せり平原極目大海の如く其際涯を知らず亦是れ一箇の大砂漠なり從來旅客の蹤跡絶えて僅に土人が猪庭の往來を見るに過ぎざりしも今を去ること十三年前中央鐵道が此の高原地上に敷設せられて延長一千二百哩爲めに米墨兩國間の交通を開き米人の墨國を探檢し之に投資し起資し以て墨國の無盡藏を開拓せんとするもの今や頗る夥し即ち此の中央鐵道は實に墨國を世界に紹介して墨國の繁榮を與へ更に教育すれば墨國の遺利を外邦人の拾取に任せんとする便利を與へたるものは實に此の鐵道の賜なり何となれば今日吾人が太平洋岸より直接に墨國首府に到らんとせば唯だ此中央鐵道の外他に一條の鐵道も無ければなり之を思へば吾人は此鐵道の資本家たる米國人に向つて感謝の意を表せざるを得ず

汽車は村落都市到る處に形成せられて偶々汽車が停車場に達すれば土民の子女相競ふて汽車の兩邊に集り旅客を要して錢を求む試みに之に一錢を投ずれば恰も池中の金魚に銀片を與ふるの有樣あり殊に吾人の目を驚かすは兵士が銃を肩にし劍を帶びて停車場に汽車を護衛するの一事なり余試みに兵士に問ふ彼答へて曰く旅客汽車を出でゝ停車場を散策するの際に乘じ賊が車內に入りて旅客の荷物を盜み去るの恐れあり故に之を護るのみと之に就いて面白き話あり前墨國駐在米國公使ホスター氏が千八百七十八年に於てシカゴ市商工業會に墨國商況を報告したる中に曰く「墨府若しく故ベラクルーズ港を去りて墨國內の旅行を試みる者は必ず兵士に護衛せられて以て強盜賊徒の來襲に備ふるを常とす危險甚し」と此の報告書何時しか墨國政府に漏れしかば墨國大藏大臣は殊に三百二十五頁に渉る詳明報告書の一書を當時の米國公使ホスター氏に送りて其答辯を求めたり米國公使は巧みに之に答へて曰く「強盜賊徒の危害は各國に於て之を護衛するの必要あり」と云ふ

○早取寫眞 SNAP SHOT (十一)

取次の書生　自尊自重

此の高原地の米國に近き部分に於ては猶はアリゾナ及びニューメキシコの所見に異ならず其の砂漠的の光景は相均しと雖も此の高原地は點々土民の群居生棲して一部落を成すを見る飲む所の水は果して地を穿つて得る所か其の食ふ所は如何なる食料か是れ未だ余の實見せざる所なるも兎に角米國內の砂漠に比して土人の生活上幾分の便利あるは疑ふべからざる所なり而して墨國の地質は能く灌漑の便を得ば耕耘に供し得べきも此の高原地には河流の利用すべきなく又沼澤に乏し故に天與の沃野も空しく砂漠となりて實用に適せざるは又惜むべきの至りなり然れども一たび墨國に入りて此の高原地を蹈むものは必ず其荒野の廣きに驚き其開拓の幼稚に呆れん唯だ汽車中の旅客此處を過ぐるの退屈又言ふべからず

墨十五日に及んで汽車は漸く砂漠を去りて田園の間に入る處々に玉蜀黍と綿の培栽したるもの多くサボテン及び龍舌蘭亦漸く多しサボテンの嫩葉は土民煮て之を食し龍舌蘭よりはブルケーと稱する濁酒を取り墨國上下擧つて之を嗜用す故に斯く土地の開けたるに從つて危害は各國に於て之を護衛するの必要あり」と云ふ

エー今日はよく借りて辯じてゆすが、先づは在ますが、又前記の如く辨高永喜氏に軍部協辨閔泳翊を辭して閔泳翊との噂あり

○

去る十二日の去る十一日免せられ、正一品閔泳翊

「詔曰、議政

間、以贊政

と共に左の

命參贊議政

任農商工部大

任副府

任軍務大臣

任議政府贊政

尹容善氏の

據るに議政

に非ずして

又前記の如く

辨高永喜氏

軍部協辨閔泳翊

を辭して閔泳翊

との噂あり

○

見えしが尙

去る十一日

免せられ、

正一品閔泳翊

「詔曰、議政

間、以贊政

と共に左の

命參贊議政

任農商工部大

任副府

任軍務大臣

任議政府贊政

尹容善氏の

據るに議政

に非ずして

又前記の如く

辨高永喜氏

軍部協辨閔泳翊

を辭して閔泳翊

との噂あり

○

ヘン左樣ニ

ナーニカ人

どゴマカシカ

情ニ暗ケレ

すとゴムの

ス個の氣は

或は哺乳動物

數多の

上腹の切開な

ある長い

見えしが尙

去る十一日

免せられ、

正一品閔泳翊

「詔曰、議政

間、以贊政

と共に左の

命參贊議政

任農商工部大

任副府

任軍務大臣

任議政府贊政

尹容善氏の

據るに議政

に非ずして

又前記の如く

辨高永喜氏

軍部協辨閔泳翊

を辭して閔泳翊

との噂あり

○

ヘン左樣ニ

ナーニカ人

どゴマカシカ

情ニ暗ケレ

すとゴムの

ス個の氣は

或は哺乳動物

數多の

上腹の切開な

ある長い